

特集

さあ、
臨床判断モデル

本誌 56 巻 7 号「看護過程再考」にて、タナー氏が構築した、臨床現場で看護師がどのように考えているかを表わした、「臨床判断モデル」を初めて紹介しました。

確かに実践者はこのように考えているという反響をいただく一方で、これはエキスパートの思考であり、基礎教育に取り入れるのは難しいとの反応もありました。

しかし、米国オレゴン州においては、このモデルのもと、声かけや事例設定などの日々の教育から、カリキュラム全体の構築、教育施設としての病院との連携などを大きく改革することにより、卒業時に臨床判断力が向上した、というデータが出ています。

日本でも、「臨床判断モデル」を導入することにより、基礎教育の段階から、学生が実践的に考える訓練を積むことがよりいっそう可能となります。学生の実践力向上のため、この特集が、皆さんの基礎教育変革の手助けとなることを願っています。